

令和 3(2021)年度 事業計画

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

今年度もコロナ禍による各種イベントへの制約が懸念される中、オンライン会議システムの利用などにより、学術講演会や研究会、初等磁気工学講座などの魅力溢れる各種イベントの開催を進める。また、岩崎コンファレンスなどのイベントにより他学会との連携の促進を図るなど、各種施策の実行を通して、会員への更なるサービス向上に努めていく。令和 3 年度は財政的には一定の収支改善が見られているが、コロナ禍による一時的な支出減によるところが大きく、財政的に厳しい状況が今後とも継続するものと認識している。会員数増や、魅力あふれる各種イベントの企画実行による参加者数増など、財務体制改善に関する根本的な取り組みや、ガバナンスの強化を一層進める。

本年度は特に下記の 5 点の活動を重点的に進める。これにより、磁気の基盤研究とその産業応用を牽引し、社会に貢献できる学会として邁進する。

◎学会活動のポイント

1. 理事会と事務局の密接な連携による学会業務の推進機能の強化・充実
2. コロナ禍後も見据えた財務体制の強化
3. 新分野創出を担う専門研究会の活動の周知・活性化
4. 学会連携の促進による新分野の構築および活性化
5. HP や Facebook の活用により本学会の魅力会員・非会員に伝える広報活動の強化

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催(定款4条1号)

1. 1 学術講演会

- ・ 磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として、学術講演会を年度内に1回開催する。
- ・ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)をめぐる社会情勢を踏まえ、第 45 回学術講演会は 2021 年 8 月 31 日(火)から 2021 年 9 月 2 日までの期間で、オンライン形式で開催する。
- ・ 前年度フェローとなられた方々の業績を讃えるイベントとして、「フェロー記念講演」を学術講演会内において実施する。

1. 1. 1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

- ・ 第 45 回学術講演会において開催予定のシンポジウムを引き続き公募制として、魅力あふれるプログラムの構成を進める。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1. 1. 2 学術講演会における非会員の講演登壇

- ・ 第 45 回 学術講演会も引き続き非会員による講演登壇を可能とする。非会員であっても登壇料の支払いを以って講演を認めることにより、投稿数の増加を期待する。

1. 1. 3 学術講演会の概要集のウェブ配信化

- ・ 第 45 回 学術講演会の概要集についても昨年同様にウェブ配信とし、会員の利便性の向上を図る。別途料金を事前に支払うことにより、概要集を従来の冊子形式で受け取ることのできる従来のサービスも一部継続する。

1. 1. 4 学術講演会の賛助会員の事前ウェブ登録の実施継続

- ・ 第 45 回 学術講演会においても、賛助会員の事前登録を学術講演会ホームページから引き続き行えるようにする。賛助会員の事前登録を実施することにより、賛助会員の利便性を向上させるのみならず、受付業務の簡素化や学術講演会への参加者の増加も期待できる。

1. 1. 5 学術講演会におけるポスターセッションの実施検討

- ・ 第 42 回、第 43 回学術講演会で行ったポスターセッションが好評であったことから、第 45 回学術講演会においてもポスターセッションの開催を検討する。ポスターセッションは、発表形式の多様化を実現し賛助会員や会員にとって参加し易くするとともに、磁気の専門家同士による活発な情報交換の場として有効なため、オンライン形式との親和性を見極めつつ、その実施を判断する。

1. 1. 6 フェロー記念講演の開催

- ・ 第 45 回 学術講演会では、昨年度フェローの称号を新たに授与された方々による、フェロー記念講演を開催する。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1. 2 研究会

- ・ 新しく、また興味深い磁気の学理およびその応用を主題とした研究会を、今年度は年 6 回を目安として開催する。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。

	開催時期	研究会の主題(仮題)
第 232 回	2021 年 5 月	強磁場応用
第 233 回	2021 年 9 月	磁気記録
第 234 回	2021 年 11 月	医療応用
第 235 回	2022 年 1 月	分析技術
第 236 回	2022 年 2 月	化合物磁性
第 237 回	2022 年 3 月	電磁を使った部材加工技術

- ・ 研究会についても COVID-19 の感染拡大状況を踏まえ、開催形式等(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

1. 3 講習会、公開講演会など

- ・ 「日本磁気学会 初等磁気工学講座」と「日本磁気学会 サマースクール」を 6 月に開催する。

電気学会との共催にすることにより、参加人数の増加を期待する。

- ・ 青少年を対象に、磁気に関する啓蒙的講座を年 1 回程度開催する。
- ・ 講演会、公開講演会についても、COVID-19 の感染拡大状況を踏まえ開催形式(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

1. 4 専門研究会

- ・ 専門研究会の活動は将来の学会を担う重点項目と位置づけ、理事会主導で活性化と新展開を進める。
- ・ ナノマグネティクス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、バイオマグネティクス専門研究会、エネルギーマグネティクス専門研究会、磁気センサ専門研究会を、それぞれ年 2 回以上開催する。
- ・ 専門研究会についても、COVID-19 の感染拡大状況を踏まえ開催形式等(オンライン形式の活用)に関して柔軟に対応していく。

1. 5 岩崎コンファレンス

- ・ 第 7 回岩崎コンファレンスを、令和 3 年 5 月 19 日～20 日の日程で東北大学電気通信研究所にて、「これからの電気自動車・自動運転技術における磁気デバイス・材料への期待」をテーマに開催する。現在注目されている、電気自動車・自動運転技術 および、それに利用される磁気デバイス・材料および関連技術に関する最先端の研究成果を集めるとともに、社会への波及効果や将来展望について討論し、それらを通して、磁気工学、電気工学、情報学との融合を推進する場とする。会議では記念講演、基調講演、招待講演の約 15 件を予定している。なお、コロナ感染の影響を鑑み、開催形態は主にオンライン形式とする。

2. 学会誌その他の図書の刊行(定款4条2号)

2. 1 学会誌および学会報の発行

- ・ 令和3年度内に、学会誌「Journal of the Magnetism Society of Japan」を、Vol.45, No.3(通巻第 315 号)から Vol.46, No.2(通巻第 320 号)まで隔月で年度内に 6 回発行する。「Journal of the Magnetism Society of Japan」は英語の本論文やレビュー等、磁気の研究を掲載する。
- ・ 学会報「まぐね」を Vol.16, No.2(通巻第 122 号)より Vol.17, No.1(通巻第 127 号)まで隔月で年度内に 6 回発行する。「まぐね」は特集記事(解説、トピックス)を中心に、論説、連載講座、磁気研究よもやま話、新製品・新技術等を掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。
- ・ 学会誌および学会報の充実のため、専門研究会論文の学会誌への投稿を推進するとともに、賛助会員の学会報まぐね「新技術・新製品コーナー」への積極的投稿をサポートする。
- ・ 学会誌の論文審査が迅速化したことや、投稿手順を分かりやすくホームページやチラシ等で示すこと等、学会誌への投稿の魅力を広く会員にアピールすることによって、投稿件数の持続的な底上げを図る。
- ・ 学会誌もしくは論文特集号へ投稿された、優秀な論文に対して MSJ 論文奨励賞を授与し、

若い研究者の意欲増強を図る。

2.2 出版活動の推進

- ・ 本年度も編集委員会が中心となって出版事業を推進する。令和3年度は教科書シリーズ 1 巻、啓発書シリーズ 1 巻の発行を目指して、原稿の収集、刊行の手続きを進める。

2.3 Journal of the Magnetism Society of Japan の活性化と SCI 登録に向けた取り組み

- ・ Journal of the Magnetism Society of Japan の SCOPUS に登録に引き続き、昨年度 SCI 登録申請を行った。SCI 審査結果の連絡を待ち、フォローアップする。
- ・ Journal of the Magnetism Society of Japan の活性化として以下の取り組みを実施する。
 - (1) 論文の査読の迅速化
迅速な論文査読を徹底する。
 - (2) Review 論文の充実
理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼する。
学会賞・業績賞・優秀研究賞受賞者による Review 論文を掲載する。
 - (3) 投稿論文の充実
専門研究会からの投稿を募る。
投稿論文 55 本を目標とする。理事会や各委員会へ協力をあおぐ。
引用数の拡大に関する呼びかけを進める。
 - (4) 電子ジャーナルの OPEN ACCESS を継続する。

3. 出版物等の広告および会員獲得のための広報活動強化

- ・ 出版物等の広告と会員数拡大を目指して、ホームページの充実と Facebook の活用を通じて戦略的な勧誘活動を行う。理事会が主導し広告代理店と協力して広告掲載数を増加させるとともに、会員への情報提供の場を拡げ、企業・会員の双方にとって魅力ある情報交流の場を提供する。
- ・ チラシ・パンフレット・ポスターなどの紙媒体を用いて、学術講演会、研究会、専門研究会などにおける会員・賛助会員の勧誘活動を推進する。
- ・ 技術情報サービスやメールマガジンによる情報提供により会員のメリットを高め、会員の獲得・維持を図る。

4. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款4条4号)

- ・ 令和 3 年度も、学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞(内山賞)、学生講演賞(桜井講演賞)、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。コロナ禍のため未実施となった令和 2 年度の表彰と併せて表彰式を実施するべく、準備を進める。ただし学術講演会はオンライン開催となるため、表彰式の開催形態について、総務と企画で検討を進める。
- ・ 学会における継続的な活動を通して磁気の学理と応用に関する研究の進展に多大な貢献が

あった者に対して、フェローあるいはライフフェローの称号を授与する。特にフェローには論文誌へのレビュー記事の投稿や次年度の学術講演会におけるフェロー記念講演等、学会活動の活性化・論文誌の魅力向上につながる活動への協力をお願いする。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款4条5号)

- 米国電気電子技術者協会(IEEE)との National Society Agreement (NSA)および IEEE Magnetics Society との Sister Society Agreement (SSA)に基づく相互協力を継続する。2019 年度スタートした「IEEE Magnetics Society の各 Japan chapter の代表者」と「MSJ の会長・副会長・理事の代表者」との交流の機会を今年度も継続し、他学会との連携を強力に推進する。
- 国内関連学会に加え、国外の関連学会等では、韓国磁気学会(KMS)、台湾磁気技術協会(TAMT)、中国、ロシア、ベトナム等と Asian Union of Magnetics Societies(AUMS)を中核として相互協力および情報交換を行う。その中で、AUMS カウンシルミーティングにおいて、IcAUMS2022 等に向けた密な情報交換を行う。
- AUMS カウンシルミーティングへの参画や IcAUMS の運營業務は主に国際委員会が担ってきたが、新たに欧米を含む関連国際会議との連携についても検討を進める。
- 学術講演会における英語発表促進の検討など、国際的な参加者数の拡大を図るほか、INTERMAG や MMM など国際会議の参加者のうち、本学会未入会者に対する入会勧奨や学術講演会への参加喚起を実施し、本学会のすそ野を広げる活動を進める。
- コロナ禍のため延期となった Joint IcAUMS-ISAMMA2020 に代わり、IcAUMS2022(2022 年 4 月に沖縄コンベンションセンターで開催予定)について、現地の大学教員とも協力しつつ準備および周知活動を進める。
- Intermag2023(2023 年 5 月に仙台国際センターで開催予定)について、現地実行委員会と協力して準備および周知活動を進める。

II 会議

令和 3 年度に開催する主要な会議である、総会、理事会および顧問会等は次により実施する。

1. 総会

- 通常総会は、令和 3 年 6 月 17 日(木)に開催する。令和 2 年度事業報告および収支決算、令和 3 年度の事業計画および収支予算、新役員体制などについて、審議および議決する。
- コロナ禍のため、オンライン・オンサイト併用で開催する。

2. 理事会

- 令和 3 年度の理事会は、原則として 6 回開催する。総会および顧問会への提出議案の作成、総会での決定事項の実施、会務の整備、各事業の充実などについて審議を行う。コロナ禍の

影響を考慮し、オンライン会議主体で実施する。

- ・ 公益法人としてのガバナンスおよびコンプライアンス体制強化のため、副会長担務の明確化（運営戦略担当、学術連携担当）による委員会相互の連携強化、および、理事会決定事項の実行責任・過程の見える化を継続して推進する。
- ・ 特任理事（男女共同参画担当、学会連携担当、国際会議担当）を総務委員会内に置き、学会に山積している諸課題を集中的に解決できる体制を構築する。
- ・ 広告数増を目指した活動や、学会間連携に関する検討など、理事会で積極的に対応すべき事象に特化したタスクフォースを立ち上げることによって、会長のガバナンスのもと、副会長を中心として柔軟に対応できる体制を確立し、問題解決を確実に実行していく。

3. 顧問会、懇談会

- ・ コロナ禍の影響を受け、例年開催している顧問会、各種懇談会等は、今年度は実施しない。

Ⅲ 公益法人運営体制の確立について

公益法人である本学会が今後も持続的に発展できるよう、コンプライアンスに留意しつつ、理事会が主導して運営を進める。本学会の活動の大きな柱である、学会誌の発行、学術講演会・研究会・専門研究会の開催は、これまで通り魅力あふれるよう継続していく。

1. 理事会主導による学会改革活動

- ・ 日本磁気学会の継続的発展を図るため、財務体質の改善や会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。
- ・ 公益法人として、ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化に関わる業務を推進する。
- ・ 会長のリーダーシップのもとに副会長の担務明確化を図り、各種の課題に着実に対応できる強い理事会体制を構築する。

2. 財務体制の強化

- ・ 財務委員会の活動を拡大し、予算・執行状況の管理のみならず、財務体制の強化に関する施策案を取り纏め、各委員会へ提言していく活動を推進する。学会の赤字体質脱却に向け、各委員会への働きかけを推進し、会員や企業に魅力あふれる学会の構築を目指す。
- ・ 副会長（運営戦略担当）をトップとする広告タスクフォースの活動を継続し、学会誌、学会報、学術講演会概要集等における広告掲載数等の増加を図る。コロナ禍のため困難も予想されるが、今年度も理事会の責任で、広告・展示勧誘活動を進めていく。
- ・ 財務基盤の抜本的改革が早急に求められているため、会費および学術講演会の参加費等の値上げを含め、会員の意向を確認しつつ理事会で議論を深め、今後の方針を決定する。
- ・ 将来の学会を支える若手会員増加のための各種施策を検討し、学会活動の持続的な活性化に反映させる。

3. 本年度の各委員会活動ポイント

◎総務委員会：

- ・理事会決定事項の進捗把握を一層進めると共に、事務局と拡大定例会を毎月開催して連携を深め、確実な推進を行う。
- ・コロナ感染状況を踏まえ、事務局職員の在宅勤務等に係る各種規定の整備を進める。
- ・賛助会員の学会運営への参画に対する各種取り組みを推進する。
- ・男女共同参画事業など、会員の満足度を向上させる各種取り組みを推進する。
- ・パワーマグネティクス分野などの、本学会の“ウィークポイント”を活性化させるべく、他学会との連携を強力に推進する。
- ・IcAUMS2022, INTERMAG2023 などの国際会議の開催準備を中心となって進める。

◎財務委員会：

- ・財務内容に大きくポジティブ／ネガティブなインパクトを与える活動に関する洗い出しを継続的に進める。
- ・収入増にむけた施策を提言する。
 1. 年会費の見直し
 2. 学術講演会、各種研修企画、研究会等の参加費見直し
 3. 新しい磁気技術分野の会員獲得
- ・財務改善のため支出減に向けた施策の検討と提言を進める。
新たな分野の研究会開催の施行や電子化の推進(オンライン会議の規模・活用レベル強化奨励)、各種印刷物の電子化推進など

◎企画委員会：

- ・賛助会員や会員にとって魅力的で参加し易い研究会、初等磁気工学講座・サマースクール、学術講演会を、主にオンライン形式で開催・運営する。また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により前年度に延期とした IcAUMS2022 について、準備を進める。
- ・需要が大きく成長が見込める磁気関連分野(パワーエレクトロニクス関係など)に関する初等的入門講座の実施を企画する。
- ・専門研究会の活動の活性化を進める。
- ・学術講演会における公募シンポジウムの充実を図る。

◎編集委員会：

- ・学生にとって論文投稿が魅力的となるべく、MSJ 論文奨励賞の授与を継続する。
- ・査読体制の見直しにより、査読の迅速化を継続して行う。

◎広報委員会：

- ・ホームページの充実と Facebook の活用を通じて本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動を強化する。
- ・ホームページ上のコンテンツ「磁気に関する Q&A」を適宜見直し、充実させる。

- ・メールマガジンを随時発行し、各種研究会の内容や学会誌情報など、有用な情報をタイムリーに会員に提供する。
- ・会員のメリットを高めるため、技術情報サービスを定期的に発行し、磁気に関する最新の技術情報を会員に提供する。

◎国際委員会：

- ・本学会と海外学協会との連携維持・強化を進め、国際的なプレゼンスを高める。
- ・2022年4月に開催予定の IcAUMS2022 に向け、AUMS council member や国内の実行委員会と連携を取りながら進める。
- ・学術講演会等における英語発表促進等の検討など、国際的な参加者(ポスドクや滞在研究者など)数を拡大する活動を開始する。